

2026 年 1 月 25 日（日） 14:00–17:00（受付 13:30）

COP30 ブラジル・ベレン 報告シンポジウム

森林・エネルギー・公正な移行を現地から日本へ

会場： 慶應義塾大学 三田キャンパス 北館大会議室

（東京都港区三田 2－15－45）

司会： 舩方周一郎（慶應義塾大学）

登壇者：

- ・石丸香苗（福井県立大学）
- ・下郷さとみ（ジャーナリスト）
- ・高村ゆかり（東京大学未来ビジョン研究センター）※ビデオ講演のみ
- ・舩方周一郎（慶應義塾大学）

言語： 日本語（講演・Q&A）

参加： 無料・事前登録制

形式： 対面・オンライン併用（ハイブリッド形式）

主催： 慶應義塾大学法学部／共催：JSPS 科研費挑戦的研究（開拓）「ESG の世界的潮流は世界の食糧安全保障に危機をもたらすか ― ブラジルと日本の視座から」（24K21177）/基盤研究（C）「日本の環境外交とラテンアメリカ諸国の反応」（25K04976）

後援： 慶應ラテンアメリカ研究フォーラム

申込： <[参加登録/Registration - Google フォーム](#)>

（締切：1 月 23 日（金） 17:00）

問い合わせ： s-masukata★keio.jp（舩方周一郎）※★→@



↑お申し込みフォーム

概要

2025 年ベレンの COP30 では、森林ガバナンス、エネルギー転換、公正な移行が交差し、国際交渉・国内実施・地域社会の動きが多層に絡み合った。本シンポジウムは、高村による COP30 の成果と日本の政策への含意を軸に、舩方の議長国ブラジルの対応に関する現地調査、下郷の先住民運動の現地取材報告、石丸の COP との同時開催市民サミット（Cúpula dos Povos）での観察を通じて、ブラジルの政策展開と日本の協力デザインを具体化する。

プログラム

開会挨拶・趣旨説明（司会）

特別講演「COP30-パリ協定採択から 10 年の到達点とこれから」※高村氏の講演は事前録画

高村ゆかり（東京大学未来ビジョン研究センター）

報告①「議長国ブラジルの COP30-合意形成のジレンマと制約」

舩方周一郎（慶應義塾大学）

—— 休憩 ——

報告②「アマゾン先住民の権利運動と民衆の連帯」

下郷さとみ（ジャーナリスト）

報告③「乖離する課題解決の方向性 — 市民サミットと COP 本会議」

石丸香苗（福井県立大学）

—— 休憩 ——

ラウンドテーブル

登壇者全員（司会・舩方による指名論点方式）

Q&A・総括

登壇者プロフィール

石丸香苗（福井県立大学教授）：

森林科学・ブラジル地域研究。アマゾンの森林資源利用と貧困層の生計・尊厳回復について実証研究を行う。副学長（学生支援・ダイバーシティ担当）、学生部長、保健学生相談センター長。

下郷さとみ（ジャーナリスト）：

1992-94 年にサンパウロのファベラで教育支援に従事。以後、リオの民衆運動とアマゾン先住民の権利運動を継続取材。千葉県鴨川市在住で里山保全にも関わる。

高村ゆかり（東京大学未来ビジョン研究センター教授）：

国際法・環境法／気候変動法政策。中央環境審議会会長、東京都環境審議会会長、経産省「再生可能エネルギー調達価格等算定委員会」委員長などを務め、日本学術会議第 25 期副会長（国際担当）を歴任。UNU-IAS 評議員、『Sustainability Science』『Climate Policy』編集委員。

舩方周一郎（慶應義塾大学法学部・准教授）：

現代ラテンアメリカ政治・外交、ブラジル研究、環境政治が専門。エネルギー・気候分野を軸にラテンアメリカで現地調査を重ねるとともに、アジア（日中韓印）とラテンアメリカの協力関係を比較検討している。

